

学校園の健康診断ボランティア



学科・専攻： 関西福祉科学大学
健康科学科
担当教員： 山本 訓子

連携先：
各府県市教育委員会
(柏原市、大阪府、奈良県など)



プログラム内容

健康診断は、児童生徒園児の発育発達や健康状態の評価のために重要な機会であり、教育課程においては特別活動の中の健康安全・体育的行事に位置づいている。健康科学科の養護教諭志望学生が、健康診断の事前準備、実施、事後措置を体験することで、学校教育活動の中での養護教諭の職務について深く学ぶことができ、子ども理解を深めるとともに、健康課題について考えることができることを目的としている。

成果・考察

奈良県は高等学校4校に対して参加学生のべ6名が活動を行った。柏原市は小学校7校、中学校3校、計10校に対して参加学生のべ人数は小学校27名、中学校7名の計34名であった。柏原市就学時健康診断は小学校9校に対して参加学生のべ80名であり、柏原市については1年間を通じて、のべ計141名の学生がボランティア活動を行うことができた。

また、学園内高校に対しては学園内高校の卒業生も積極的に参加し、のべ55名が活動を行った。さらに今年度は、大阪府立高校へのボランティア派遣を新規で行った。豊島高等学校16名、富田林中・高等学校2名、河南高等学校7名の学生が参加した。

養護教諭に必要な資質や、相手を思いやる気持ちなど様々なことを学び、実践力を備えた養護教諭になってくれると思われる。



歯科検診の記録



学園内高校



視力測定



関西福祉科学大学
健康科学科
山本 訓子 講師

今年もたくさんの学生が健康診断ボランティアに参加してくれました。ボランティア先の養護教諭の先生からは、「皆様、記録や計測に丁寧に臨んでくださいましたが、なかでも4回生の方々は事後の報告も的確で、今すぐにでも現場で一緒に働かせていただきたいと感じる頼もしさでした。本校は今年度から完全に養護教諭単数配置となってしまう、保健室が切実な人手不足の状況ということもあり、学生の皆様のご協力が、本当にありがたく感じました」と温かな感謝の言葉をいただいで、学生たちとともに「積極的に活動して良かったね」と喜びを分かち合いました。

この健康診断ボランティアを通して、自己の課題を見つけ、ますます学修に励んでくれている様子が見られます。



関西福祉科学大学
健康科学科 4年生
養護実践演習での振り返りから

健康診断ボランティアでの学びを学生同士で共有する4年生の養護実践演習の授業では、高等学校ではスムーズに行くことも、小学校では子どもたちが分からなくなってしまい、より具体的に指示しなければならないことや、高等学校でも、視力検査では前髪を上げたくない、目線も上げたくないという心情を察して配慮しながら行わなければならない生徒もおり、学校種ではなく一人一人に合わせた対応が健康診断には必要になることを学びました。

さらに、健康診断は全職員が協力して行っている学校行事であることを体感し、そのために養護教諭は分かりやすい資料を作って周知させていることなど、ボランティアで得た学びを自分の言葉で堂々と発表しました。